

今月はICO10月マーケットレポートに加え、トピックスとして115回理事会資料として配られた①ロシアのコーヒー市場及び②中国のコーヒー市場の邦訳をおとどけします。



コーヒー市場は一時的に上昇したものの、引き続き下落傾向だった。

10月初めコーヒー価格は少し上昇したが、コモディティ価格全般の下げにつれ、コーヒー価格も下落した。2014/15年度のコーヒー総輸出量はこの5年間で初めて前年対比減少したが、依然、輸出量は多く110.7百万袋となった。しかし、来年度のことを考えるといくつかの主要輸出国の生産量が減少する可能性があるため、再度ブラジルの2016/17年度の実産量の行方に注目が集まることになるだろう。

グラフ 1: ICO 日次複合指標価格

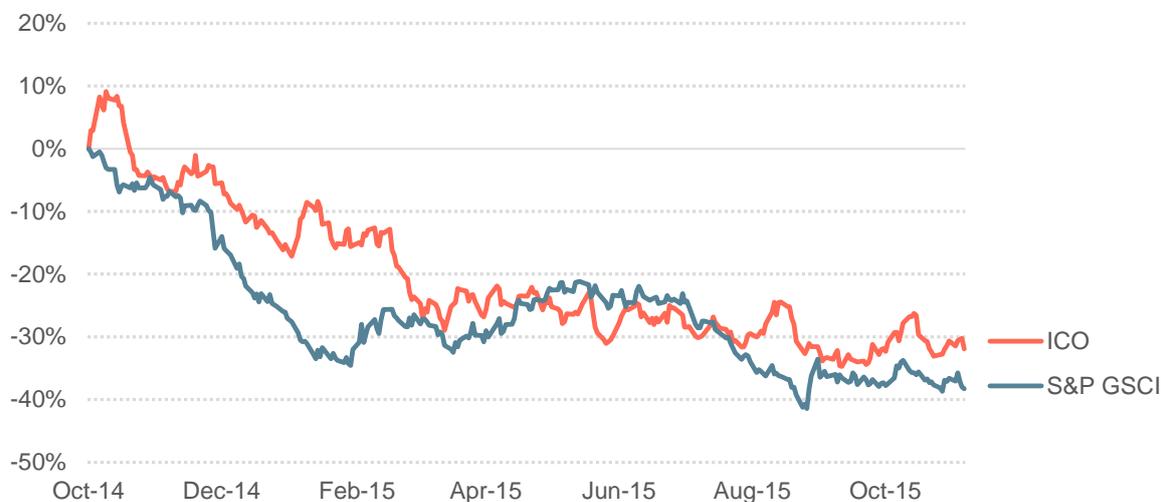


© 2015 International Coffee Organization (www.ico.org)

10月のコーヒー価格は、ブラジルで期待されていた降雨がなかった為、同国の2016/17年度収穫に向けた開花が懸念材料となり上昇して始まった。ICO日次複合指標価格は月初めの114.8米銭/LBから10月14日には高値の125.08米銭まで上昇した。しかし、ブラジルのリアルが米ドルに対し再び弱含んだ為、また雨が降り始めたため、価格は下落し始め安値となる113.48米銭まで下落した。結局月間平均価格は9月に比べ4.7%高い118.43米銭となったが、市場は引き続き昨年からみられる弱気相場に支配されているようだ。

更に、コーヒー価格は、下図に見られるようにスタンダードアンドプアーズのG S C I コモディティ指数が表す全般的なコモディティ価格の動きと同じような動きをしていることには注意を要する。昨年からのコモディティ価格下落の大きな理由は中国の経済成長減速懸念及び米国の金利上昇の可能性によるものである。故にコーヒー需給のファンダメンタルズのみがコーヒー価格を決めるものではないということを考慮しておく必要がある。

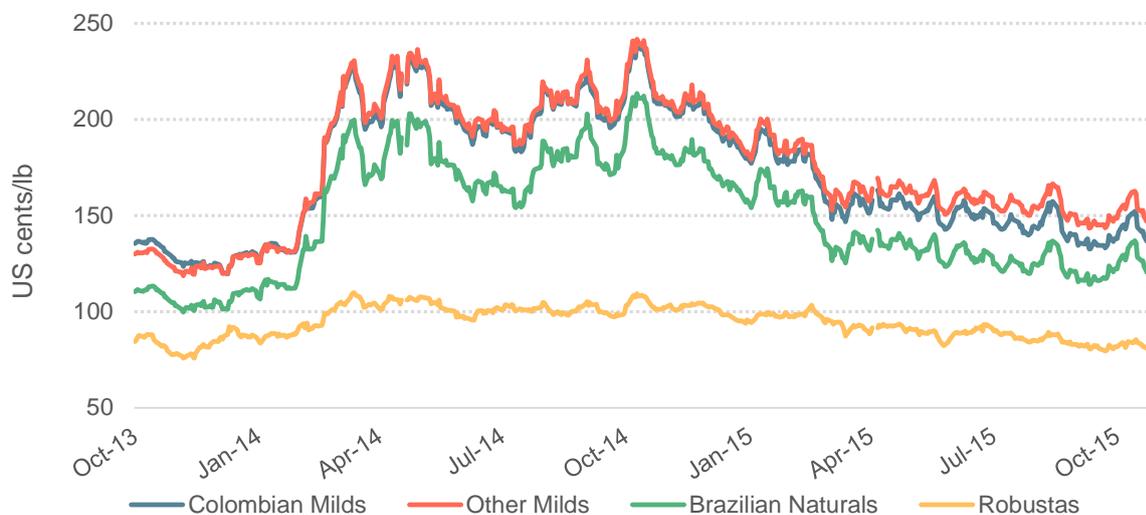
グラフ 2: ICO 複合指標価格とS&P GSCI コモディティ指数



© 2015 International Coffee Organization (www.ico.org)

グループ指標を見ると、コロンビアマイルド、アザーマイルド、ブラジルナチュラルの3アラビカ指標はロブスタに比べ若干上昇した為、ニューヨーク先物市場とロンドン先物市場のアービトラージは12.8%広がった。アザーマイルドはコロンビアに対し引き続きプレミアムで取引されているが、これはコロンビアの月次生産量が引き続き増産傾向にあることによるものである。10月の月間価格変動率は先月と同じ様な水準で7.6%である。

グラフ 3: ICO 日次グループ指標価格



© 2015 International Coffee Organization (www.ico.org)

グラフ 4: ニューヨークとロンドン先物市場のアービトラージ



© 2015 International Coffee Organization (www.ico.org)

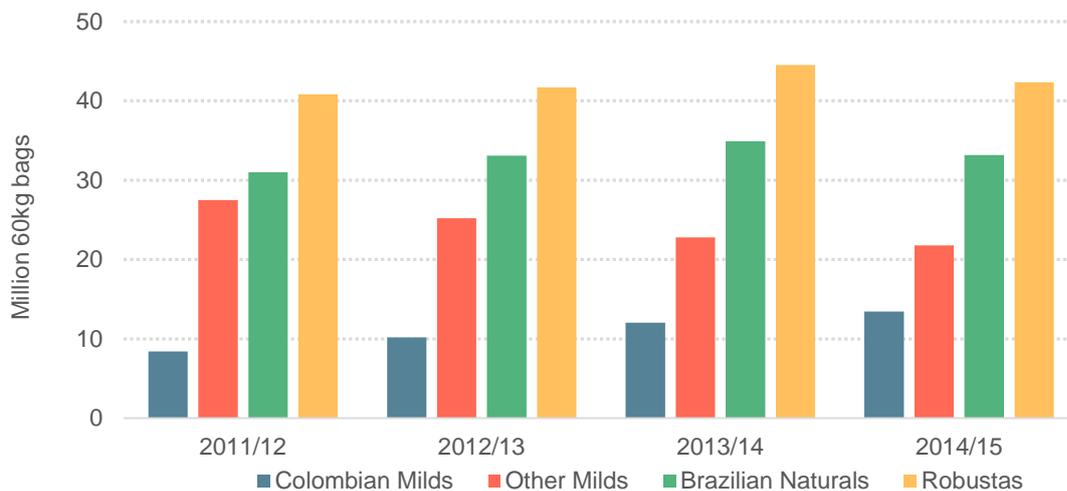
グラフ 5: ICO 複合指標価格の30日移動平均価格の価格変動率



© 2015 International Coffee Organization (www.ico.org)

2014/15年度末までの総輸出量は110.7百万袋となり、昨年度に比べ3.1%減少した。今年度の輸出量はこの5年間で初めて前年度対比減少した。アラビカコーヒー、ロブスタコーヒー両方とも夫々輸出量が1.9%、4.9%減少したが、ただコロンビアマイルドグループは11.6%の増加を記録した。

グラフ 6: 総輸出量 (2011/12 - 2014/15コーヒー年度)



© 2015 International Coffee Organization (www.ico.org)

主要オリジンについてみると、ブラジルの輸出量は36.3百万袋となり、2013/14年度対比1.8%増加し、ブラジルの輸出量記録を更新した。一方、ベトナムは大きく輸出量を減らし、19.2%減の推定20百万袋となった。コロンビアは生産量が回復したため輸出量は13.3%増え、12.3百万袋になり、インドネシアも推定7.3百万袋に増加、ホンジュラスは5百万袋であった。

2014/15年度の推定生産量を若干修正し、前年度対比1.8%低い36.3百万袋とした。この修正はコロンビアの生産量増加が主な理由であり、現在13.3百万袋と予想されている。しかし、コロンビアの来年の生産量となるとエルニーニョによる降雨量不足の影響で減産になる可能性が高い見通しで、インドネシア、ベトナムも同様に悪天候が生産量に影響する可能性があるだろう。

表 1: ICO 指標価格及び先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
Oct-14	172.88	222.59	225.29	197.05	104.70	210.12	95.51
Nov-14	162.17	206.41	209.38	181.43	103.06	192.33	93.60
Dec-14	150.66	190.16	193.60	166.58	98.43	177.82	89.86
Jan-15	148.24	185.26	190.00	163.50	98.01	173.19	89.33
Feb-15	141.10	174.11	178.89	151.90	98.36	159.55	89.76
Mar-15	127.04	154.29	160.74	133.55	92.16	139.70	82.94
Apr-15	129.02	157.06	164.00	136.70	92.06	141.79	82.71
May-15	123.49	150.19	158.48	130.38	87.56	135.22	78.03
Jun-15	124.97	152.02	159.76	130.51	90.25	135.86	80.25
Jul-15	119.77	144.52	154.45	123.64	87.12	128.59	77.16
Aug-15	121.21	146.96	156.92	127.24	85.78	132.42	76.25
Sep-15	113.14	135.55	146.15	117.83	81.50	121.66	71.53
Oct-15	118.43	143.10	153.25	127.47	82.78	129.45	72.89
% change between Oct-15 and Sep-15							
	4.7%	5.6%	4.9%	8.2%	1.6%	6.4%	1.9%
Volatility (%)							
Sep-15	7.3	7.7	6.6	9.4	6.4	8.3	7.0
Oct-15	7.6	8.2	7.9	9.7	6.3	9.5	7.2
Variation between Oct-15 and Sep-15							
	0.3	0.5	1.3	0.4	-0.1	1.2	0.3

* Average price for 2nd and 3rd positions

表 2: 価格差 (US cents/lb)

	Colombian Milds	Colombian Milds	Colombian Milds	Other Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	New York*
	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	Brazilian Naturals	Robustas	Robustas	London*
Oct-14	-2.70	25.54	117.89	28.24	120.59	92.35	114.61
Nov-14	-2.97	24.98	103.35	27.95	106.32	78.37	98.73
Dec-14	-3.44	23.58	91.73	27.02	95.17	68.15	87.96
Jan-15	-4.74	21.76	87.25	26.50	91.99	65.49	83.86
Feb-15	-4.78	22.21	75.75	26.99	80.53	53.54	69.79
Mar-15	-6.45	20.74	62.13	27.19	68.58	41.39	56.76
Apr-15	-6.94	20.36	65.00	27.30	71.94	44.64	59.08
May-15	-8.29	19.81	62.63	28.10	70.92	42.82	57.19
Jun-15	-7.74	21.51	61.77	29.25	69.51	40.26	55.61
Jul-15	-9.93	20.88	57.40	30.81	67.33	36.52	51.43
Aug-15	-9.96	19.72	61.18	29.68	71.14	41.46	56.17
Sep-15	-10.60	17.72	54.05	28.32	64.65	36.33	50.13
Oct-15	-10.15	15.63	60.32	25.78	70.47	44.69	56.56
% change between Oct-15 and Sep-15							
	-4.2%	-11.8%	11.6%	-9.0%	9.0%	23.0%	12.8%

* Average price for 2nd and 3rd positions

表 3: 輸出国の総生産量

Crop year commencing	2011	2012	2013	2014	% change 2013-14
TOTAL	136 571	147 615	146 630	143 253	-2.3%
Arabicas	82 007	88 370	87 010	84 999	-2.3%
Colombian Milds	8 720	11 523	13 488	14 656	8.7%
Other Milds	31 845	28 933	26 829	26 531	-1.1%
Brazilian Naturals	41 442	47 914	46 693	43 812	-6.2%
Robustas	54 564	59 245	59 620	58 253	-2.3%
Africa	16 058	16 632	16 240	16 569	2.0%
Asia & Oceania	41 919	45 379	46 573	45 693	-1.9%
Mexico & Central America	20 194	18 481	16 585	18 001	8.5%
South America	58 400	67 122	67 232	62 990	-6.3%

単位：千袋

Full production data are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 4: 輸出国の総輸出量

	September 2014	September 2015	% change	October - September		
				2013/14	2014/15	% change
TOTAL	9 397	8 871	-5.6%	114 236	110 746	-3.1%
Arabicas	5 326	5 557	4.4%	69 702	68 399	-1.9%
Colombian Milds	892	1 147	28.6%	12 033	13 435	11.6%
Other Milds	1 566	1 484	-5.2%	22 767	21 791	-4.3%
Brazilian Naturals	2 868	2 926	2.1%	34 902	33 173	-5.0%
Robustas	4 071	3 314	-18.6%	44 534	42 347	-4.9%

単位：千袋

Full trade statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 5: ニューヨーク及びロンドン先物市場の認証在庫量推移

	Oct-14	Nov-14	Dec-14	Jan-15	Feb-15	Mar-15	Apr-15	May-15	Jun-15	Jul-15	Aug-15	Sep-15	Oct-15
New York	2.67	2.63	2.60	2.55	2.56	2.60	2.56	2.41	2.43	2.38	2.36	2.28	2.15
London	2.02	2.08	2.12	2.35	2.55	2.84	2.93	3.02	3.12	3.35	3.43	3.43	3.37

単位：百万袋

表 6: 世界の消費量

Calendar years	2011	2012	2013	2014	CAGR (2011-2014)
World total	139 364	143 099	147 495	149 162	2.3%
Exporting countries	42 788	44 196	44 951	46 144	2.5%
Traditional markets	77 561	78 417	80 880	81 091	1.5%
Emerging markets	19 015	20 485	21 664	21 927	4.9%

CAGR: Compound Annual Growth Rate

単位：千袋

Full consumption statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

ロシアのコーヒー市場

序論

1.

ロシアのコーヒー市場は過去20年間著しく成長を遂げた。ロシアは今や世界で8番目の消費国となり、世界有数のインスタントコーヒー市場でもある。2014年、ロシアは4.7百万袋（60kg）のコーヒー生豆を輸入し、その内700000袋強を近隣諸国に再輸出している。国内市場の大部分をインスタントコーヒーが占めているが、国際的なコーヒーショップチェーンや国内喫茶店などの進出は新たなレギュラーコーヒー需要の拡大を促している。しかし、ロシアは伝統的な紅茶消費国であり、未だホット飲料市場の3分の2近くを紅茶が占めている。

消費

2.

ロシアのコーヒー消費量は2014年に4百万袋を超えたが、この数字は2000年の2倍以上の量である。この成長の大半は1998年～2007年の10年間に達成されたもので、この期間の年間成長率は10%を超えている。この期間は特に経済成長が著しい期間でもあった。これ以降コーヒー市場の成長率は低下したが、それでも最近5年間の年間成長率は2.4%となっている。金額ベースでの市場規模は更に高率で成長しており、ロシア紅茶・コーヒー製造協会（Rusteacoffee）調べによると2001年に750百万米ドルだったものが2011年には2500百万米ドルになっている。

グラフ 1: ロシアのコーヒー消費量 (1994 - 2014)



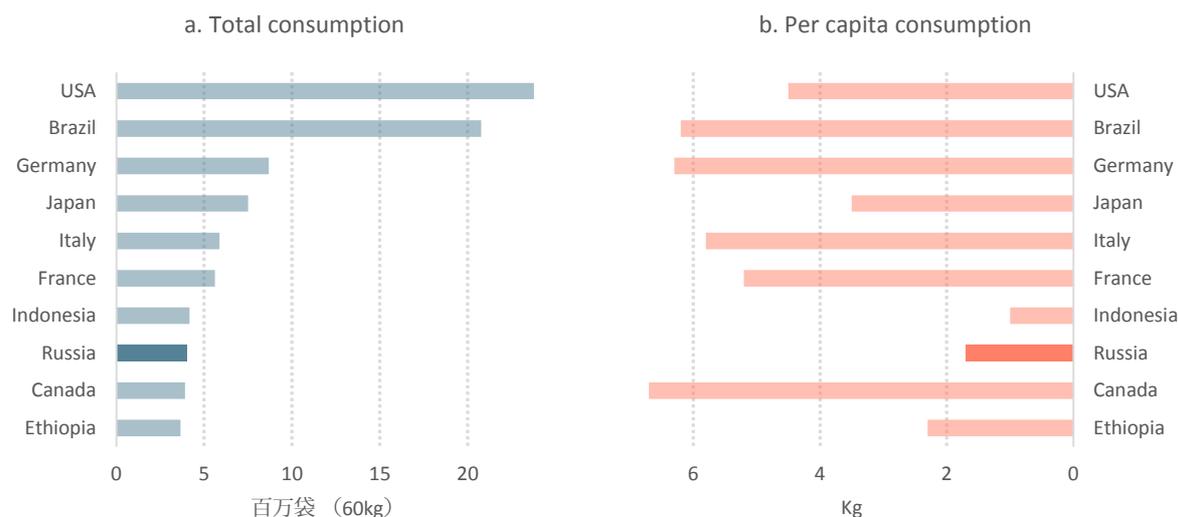
¹ ロシアのコーヒー消費量は純輸入量で示している、即ち：総輸入量 - 総再輸出量（60kg袋 生豆換算）全ての数量は暦年の数字である。

² http://www.ico.org/event_pdfs/seminar-consumption/rusteacoffee-e.pdf.

3.

ロシアの人口は143百万人なので、一人当たり年間コーヒー消費量は1.7 k gとなるが、この数字は2000年に比べると2倍以上となっている。世界水準を見るとあまり多いとは言えないが、ロシア国民が一人当たり年間120杯のコーヒーを飲んでいる計算である。グラフ2はロシアのコーヒー消費量を世界主要消費国と比較したものである。

グラフ 2: 10大コーヒー消費国の消費量 (2014)

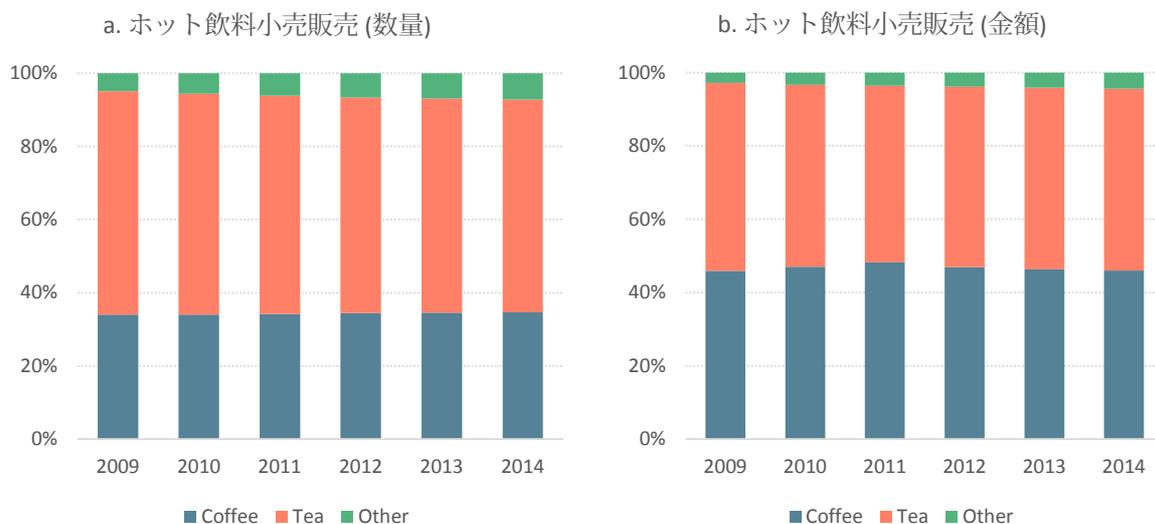


市場構造

4.

近年コーヒー消費量が伸びているのは事実だが、ロシアのホットドリンク市場は未だ紅茶が主流である。市場調査機関のユーロモニター（Euromonitor International）によるとコーヒーの小売販売市場規模は量ベースで三分の一強だが、金額ベースでは46%になっている（グラフ3）。コーヒーの市場シェアは過去2~3年緩やかに伸びてきたが、これ以上の成長は限られていると思われる。

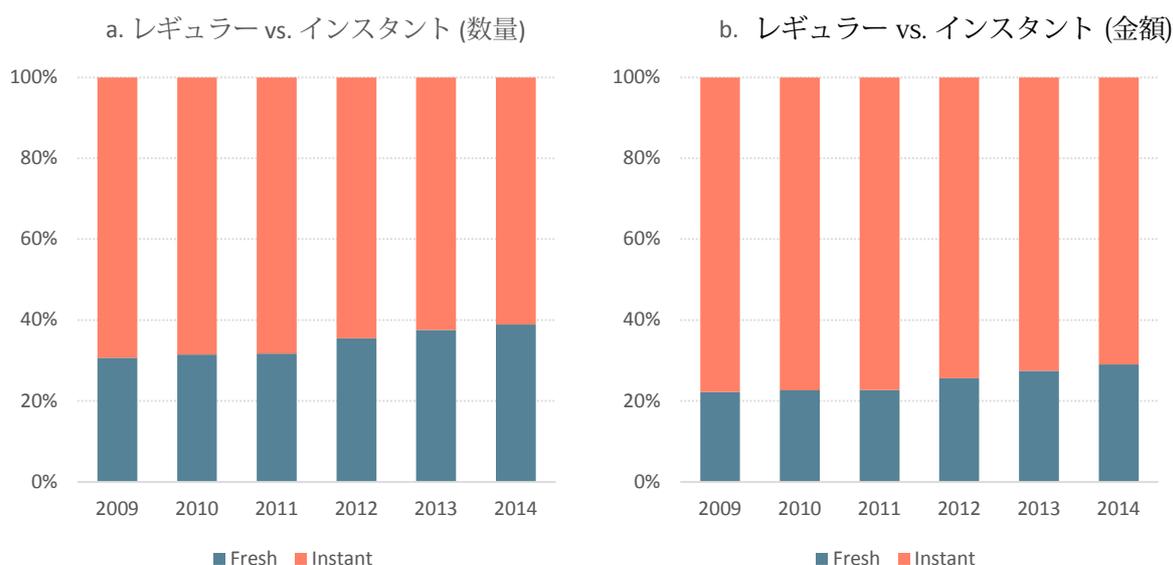
グラフ 3: ロシアのホット飲料市場



5.

コーヒーの市場構造を見るとロシア市場はレギュラーコーヒーよりインスタントコーヒーを好む傾向がある。これは特に伝統的な茶消費国で見られる傾向である、即ちインスタントコーヒーの点て方はお茶とほぼ同じで（単にお湯を加えるだけである）、お茶からコーヒーへの切り替えが簡単に行われる理由だと思われる。コーヒー市場が成熟してくると、消費者は品質の高いものを求める傾向があり、このことは図4でも見られるとおりでである。ユーロモニターによると2014年のレギュラーコーヒーの小売販売シェア（量ベース）は、2009年に31%だったものが39%に増加している。今や主にロシアの消費市場を牽引しているのはレギュラーコーヒーだと言える。

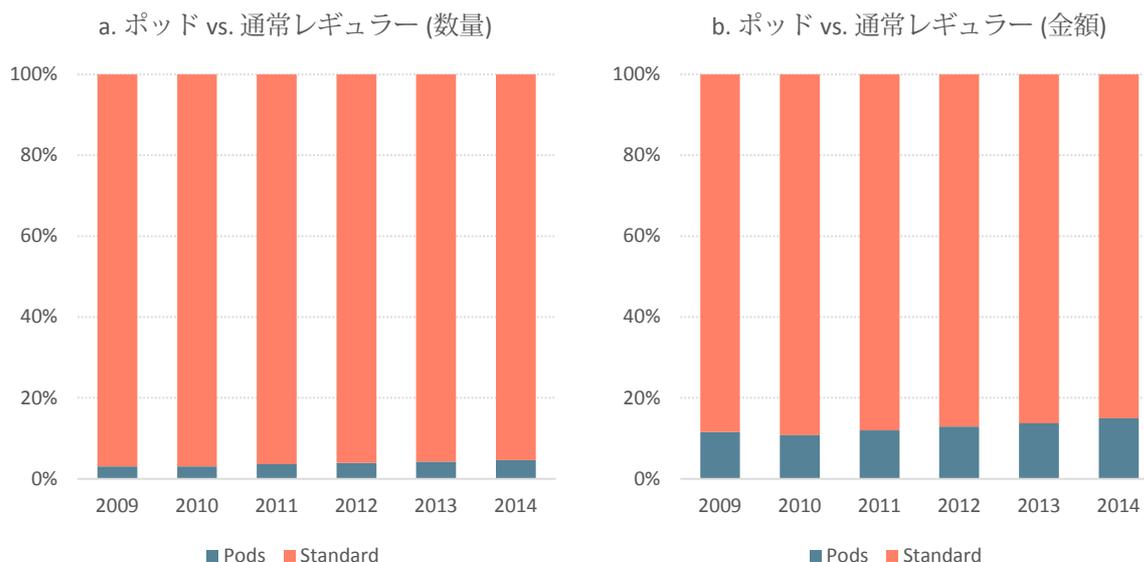
グラフ 4: カテゴリー別コーヒー小売販売



6.

最近のコーヒー市場で注目されるのは一杯取りレギュラーコーヒーの伸長である。この市場はまだ小さなニッチマーケットに過ぎないが、急速に、特に金額ベースでは大きく成長している。過去6年間を見るとロシアの一杯取りレギュラーコーヒー市場は年平均20%以上であり、レギュラーコーヒー市場では圧倒的な伸びを示している。2014年には、一杯取りコーヒーのレギュラーコーヒー小売販売シェアは数量ベースで2.8%、金額ベースでは9.4%を占めている（グラフ5）。

グラフ 5: 分野別コーヒー小売販売（数量）



Box 1: ロシアの紅茶

ロシアには長くかつ根強い紅茶飲用文化が存在し、中国との紅茶貿易の歴史は数百年以上前に遡っている。また、ダゴミー（Dagomys）の南西地域では若干量の紅茶を生産しているが、生産量は全消費量の1%弱程度に過ぎない。紅茶消費の歴史的傾向は伝統的なロシアの茶道に見られるが、お湯は飾り模様の施された湯沸かし器（Samovar=水を沸騰させ、保温する）から注がれる。お茶は伝統的に、紅茶バッグではなく茶葉から淹れられ、通常茶菓子が添えられるが、作法は地域により異なる。ユーロモニターの報告では、ロシアのホットドリンク市場は飽和状態になっており、消費者は明らかにコーヒーより紅茶嗜好が強いと言える（平均的なロシア人は毎日2杯の紅茶を飲むがコーヒーは0.65杯しか飲まない）。

国際取引

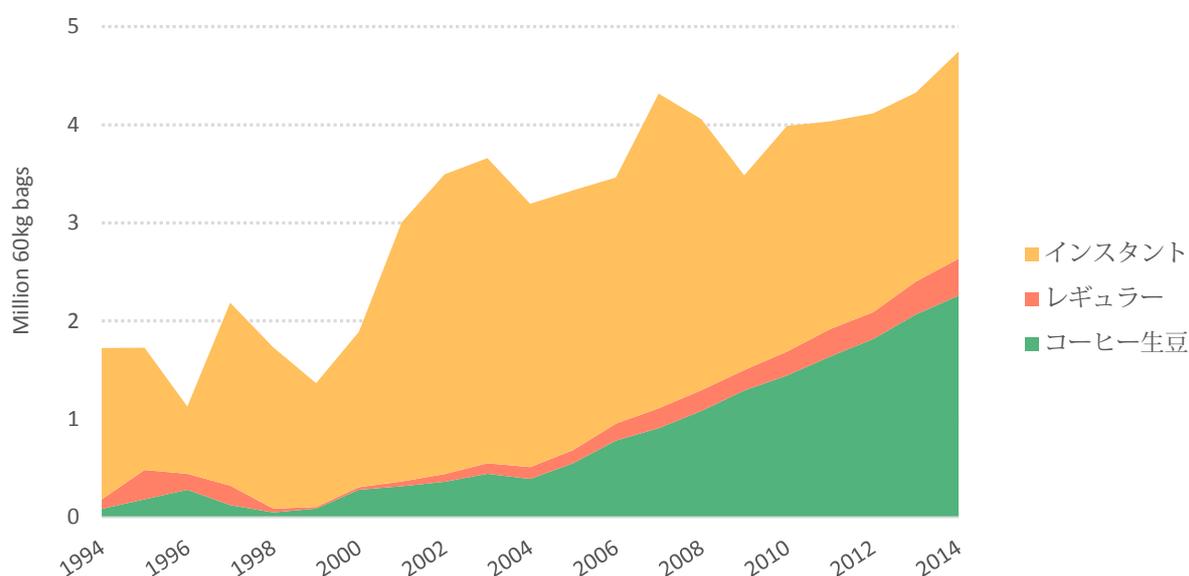
7.

ロシアのコーヒー輸入量及び再輸出量は過去20年間、急速に増加した。1994年からのコーヒー輸入量は平均年率5.2%で成長し、2014年には4.7百万袋に達した。これ以降成長率は鈍化しているが、2010年以降の平均年間成長率は4.4%となっている。今ではロシアは、米国、ドイツ、日本、イタリア、ベルギー、スペイン、カナダに次ぐ世界で8番目のコーヒー輸入国である。

8.

1994年からのロシアの輸入統計資料を見ると、輸入に占めるインスタントコーヒーのシェアが大きいことがよく解るが、加工されていないコーヒー生豆の輸入量が最近10年間で急速に伸びていることもよく解る。1994年には全輸入の90%近くをインスタントコーヒーが占めていたが、2014年には44%にまで減少し、生豆輸入量の48%を下回っている。これは、国内加工産業が発達したことによるもので、国民の嗜好が変化したわけではない。今やロシアはコーヒー生豆を大量に輸入し、それを焙煎加工し（多くはインスタントコーヒー向けだが、レギュラーコーヒー向けも増えている）、国内消費用としてまた近隣諸国への再輸出用として出荷される。

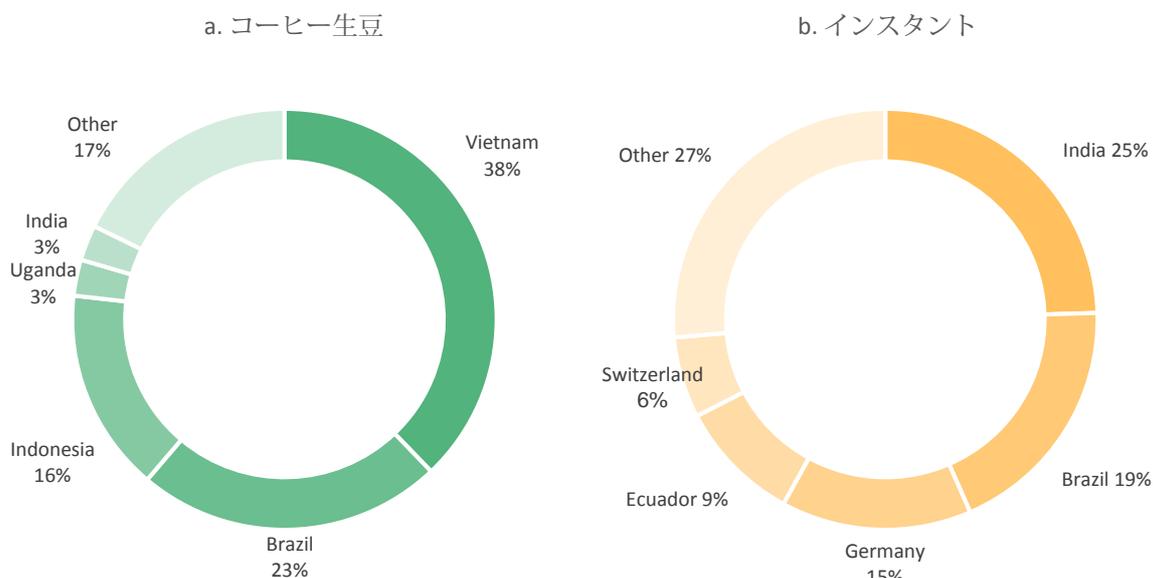
グラフ 6: 形態別コーヒー輸入量 (1994 - 2014)



9.

グラフ7で解るように、半分以上のコーヒー生豆がベトナムとブラジルの2か国から輸入されている。更に輸入の大半はロブスタ生産国からとなっている（尤も、ブラジルからの輸入はアラビカとロブスタ両方の可能性がある）。このことは、ロシア市場がロブスタを主要原料とするインスタントコーヒーが多くを占めているという話しと一致する。インスタントコーヒーの輸入先については、インド、ブラジル、エクアドルなどのような国内に優れたインスタントコーヒー産業を有する生産国とドイツやスイスの様なコーヒー加工品を大規模に再輸出している輸入国に二分される。更に詳しい輸入データは付属資料をご参照願ひ度。

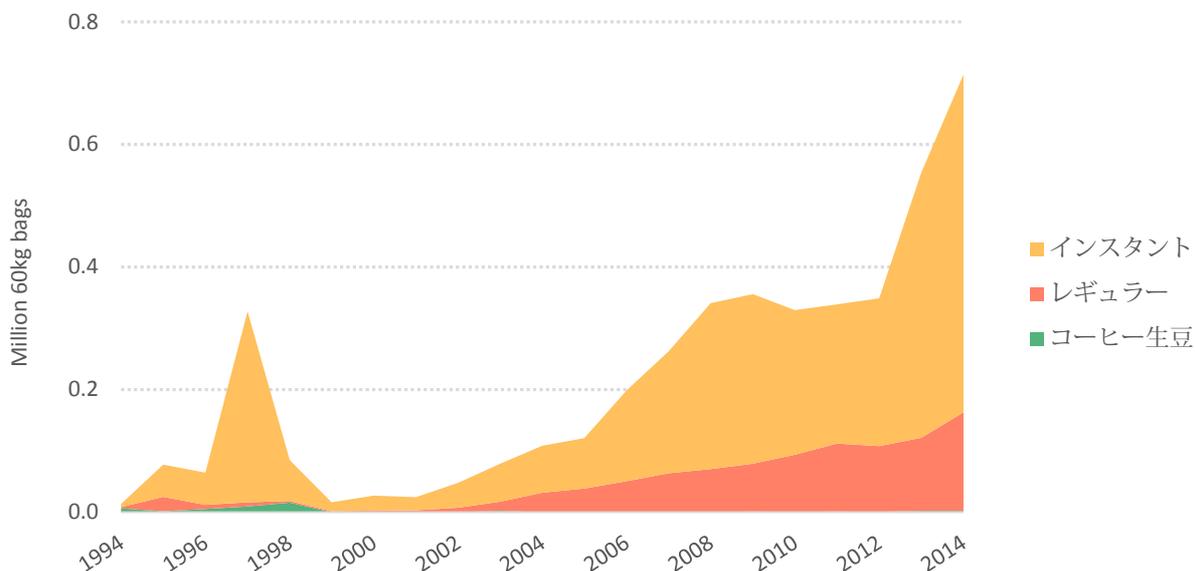
グラフ 7: オリジン別コーヒー輸入 (平均: 2010 – 2014)



10.

先述したように、過去10年間にロシア国内では比較的先進的なコーヒー加工産業が発展してきた。下のグラフ8は1994年からのロシアのコーヒーの再輸出を示しているが、1990年代にはほぼゼロだったものが、2014年には714000袋までに増えている（1997年に異常な上昇が見られるが）。これらの再輸出は殆どがレギュラーコーヒー（2014年は23%）とインスタントコーヒー（77%）である。輸出先については、半分以上がウクライナ向けであり（2010年～2014年の平均58%）、残りがベラルーシ（7%）、ウズベキスタン（5%）、グルジア、カザフスタン、トルクメニスタン（全て4%）などに分かれている。

グラフ 8: コーヒー形態別再輸出 (1994 – 2014)

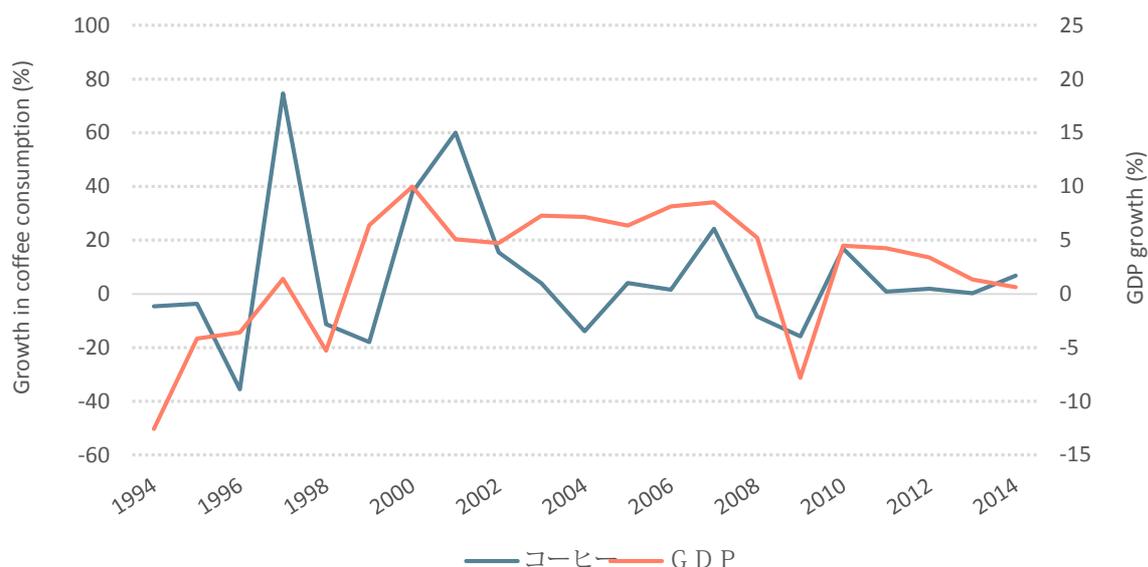


見通し

11.

この20年間ロシアのコーヒー消費は拡大してきたが更に伸びる可能性があるかというところまで限定されると言わざるを得ない。需要を主に牽引するのは一杯取りコーヒー抽出器や高品質焙煎機などの技術革新によるものだと思うが、これらと圧倒的な消費市場シェアを持つインスタントコーヒーとの市場の食い合いは既に始まっている。しかし、これらの傾向は一般的に可処分所得を有する比較的裕福な消費者が増えるかどうかであるが、これは今後の経済の成長が続くかどうかにかかっている。特にロシアのような新興市場のコーヒー消費は経済成長に左右されるが、ロシアの成長は主に原油価格に頼っている。世界銀行は最近ロシアの2015,2016,2017年の実質GDP成長率の見通しを夫々▲2.7%、+0.7%、+2.5%と発表した。経済成長率は国内コーヒー産業に重要な結果を及ぼすことになるだろう。

グラフ 9: コーヒー消費成長率と GDP (1994 - 2014)



12.

更に、Rustecoffeeはコーヒー消費は引き続き成長するだろうと報告しているが、限られた階層の国民がコーヒーを飲んでいる現状を考えると消費が大きく伸びるにはまだ解決すべき問題が多いと思われる。紅茶飲用の歴史及びロシア文化における紅茶の重要性もまたコーヒー産業が更に成長する為の障壁になるだろう。コーヒーは更に普及すると考えられているが、それは一杯取りコーヒーポッドや喫茶店消費などのニッチ分野に限られたものになるだろう。

³ <http://www.worldbank.org/en/news/press-release/2015/06/01/world-bank-revises-its-growth-projections-for-russia-for-2015-and-2016>

TOP TEN ORIGINS OF COFFEE IMPORTS BY RUSSIA

表 1: 全形態コーヒー:

	Average (2010 - 2014)	% of total	Cumulative %
Brazil	828	20%	20%
Vietnam	767	18%	38%
India	564	13%	51%
Germany	342	8%	59%
Indonesia	290	7%	66%
Ecuador	198	5%	70%
Switzerland	143	3%	74%
Italy	132	3%	77%
Colombia	110	3%	80%
Spain	93	2%	82%
Others	776	18%	100%
Total	4 243	100%	

表 2: コーヒー生豆

	Average (2010 - 2014)	% of total	Cumulative %
Vietnam	698	38%	38%
Brazil	430	23%	61%
Indonesia	288	16%	77%
Uganda	51	3%	80%
India	50	3%	82%
Ethiopia	43	2%	85%
Peru	41	2%	87%
Colombia	40	2%	89%
Honduras	40	2%	91%
Tanzania	24	1%	93%
Others	138	7%	100%
Total	1 844	100%	

表 3: インスタントコーヒー

	Average (2010 - 2014)	% of total	Cumulative %
India	514	25%	
Brazil	397	19%	43%
Germany	304	15%	58%
Ecuador	198	9%	67%
Switzerland	131	6%	74%
Spain	91	4%	78%
Colombia	70	3%	81%
Vietnam	68	3%	85%
Poland	62	3%	87%
South Korea	50	2%	90%
Others	213	10%	100%
Total	2 097	100%	

単位：60kg 袋

レギュラーコーヒーの輸入量は数量が少ないので除いた。

中国のコーヒー市場

序論

I.

1. 近年、中国ではコーヒー消費量、生産量共に2桁台の伸びを示しており、衰える気配が見えない。中国は今やケニアとタンザニアを合わせた量のコーヒーを生産し、オーストラリアを超えるコーヒーを消費している。中国経済は継続的に成長しており可処分所得を有する中間層は拡大しそれに伴いコーヒー需要は増加している。喫茶店はもはや珍しい存在ではなく市街ではどこでも見られる普通の風景となっている。とはいえ未だ中国はお茶を主飲料とする国である、しかし急速にコーヒーの味を受け入れつつあることは事実で、世界のコーヒー市場に重要な意味をもつようになってきている。

II. 中国のコーヒー消費

(a) 概観

2. 中国のコーヒー消費量を予測することは、信頼できる統計資料がないためかなり困難である。しかし、生産量と輸出量及び輸入量から類推することは可能である。この方法により分析した結果では、2013/14年度の中国の消費量は推定約1.9百万袋で、最近10年間の年間成長率は16%程度である。この消費量は中国が世界で17番目の消費国であることを示している。しかし、14億人の人口を考えると国民一人当たりの年間消費量は83グラム、もしくは年間一人当たり5~6杯のコーヒーしか飲んでいない計算になる、しかしいずれにせよこの数字は急速に伸びている。更に都市部における一人当たり消費量はかなり高いと考えられており、香港のそれは推定2キログラムであり、この数字はEUでは4.9キログラム、米国では4.4キログラムとなっている。

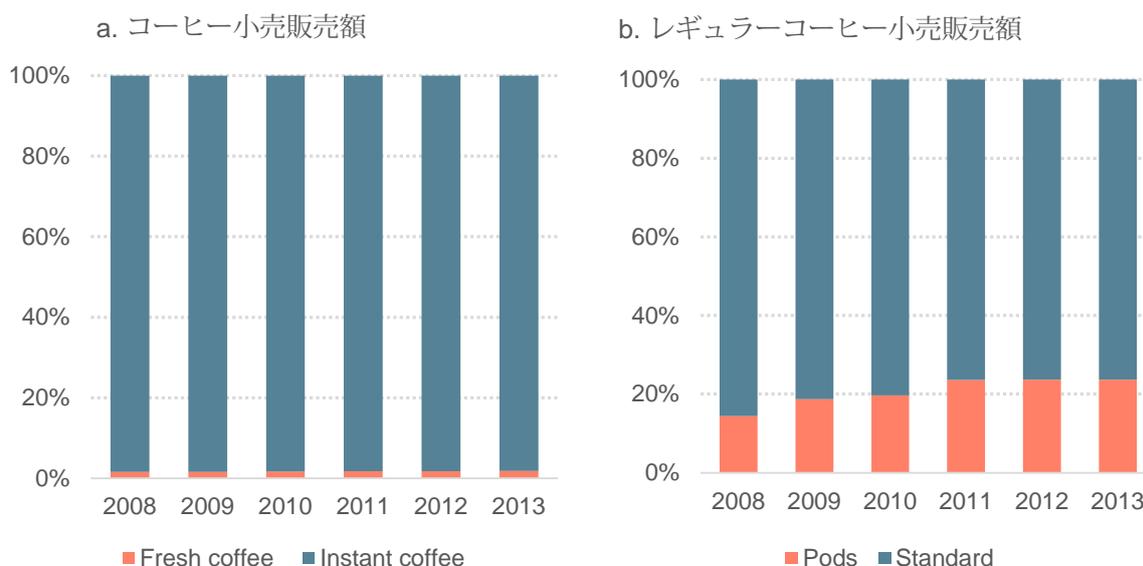
(b) 市場構造

3. 市場調査会社ユーロモニター (Euromonitor) によると中国コーヒー市場はほぼ全てがインスタントコーヒーである。事実、インスタントコーヒーの小売販売シェアは数量で約99%、金額で98%を占めている(レギュラーコーヒーの成長率はインスタントコーヒーを上回っている)。インスタントコーヒーの中で最も普及しているのはコーヒーと砂糖、粉末ミルクもしくはフレーバーが一つになった3イン1製品である。しかし、一般大衆の間では喫茶店やコーヒー文化が普及しており、レギュラーコーヒーの消費が伸びている。更に小売販売に比べ直売 (On-Trade sale) での販売増加が顕著であり、2013年末現在の中国のコーヒーショップの数は13,834店舗である。可処分所得の増加に伴い、消費者にはプレミアム商品を求める傾向がでてきている。最も成長率が著しいのは小売用コーヒーポッドだが数量ベースではニッチカテゴリーの商品である。

¹ このレポートでは『中国』という場合香港・マカオの特別管理地域を含んでいる。また特に注釈をつけない場合、数字は全て収穫年度(10月~9月)のものである。

² 方法論詳細は最終ページの付属資料に説明してある。

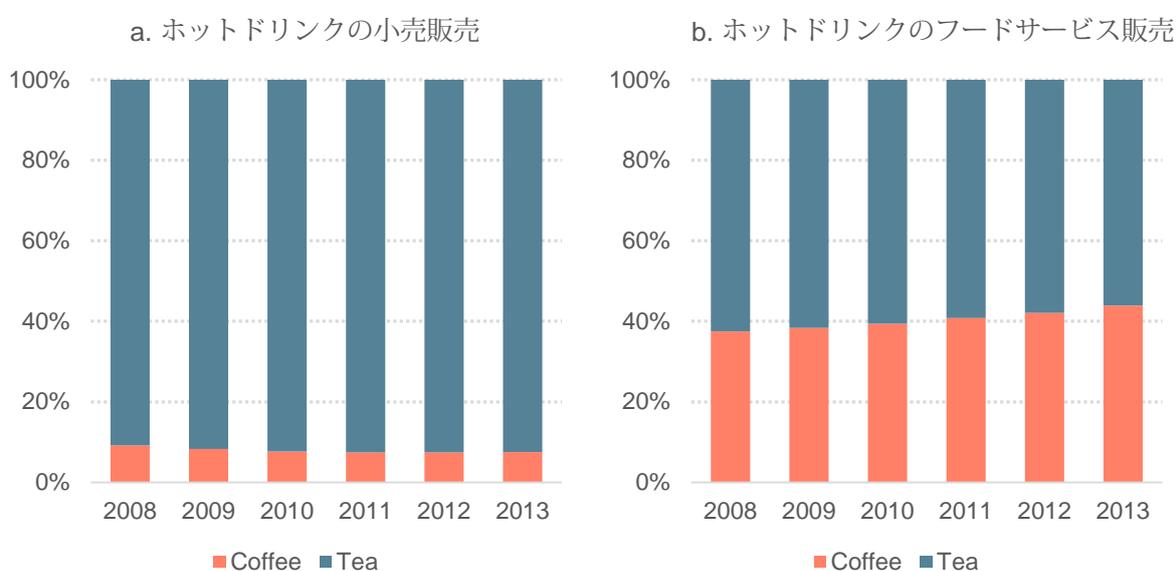
グラフ 1: Market composition of retail sales by value



Source: Euromonitor International

4. これ程の成長にも拘わらず、中国は未だ圧倒的なお茶飲用国であり、茶の小売販売シェアはコーヒーの約10倍である。しかし、フードサービス分野ではコーヒーのシェアが伸びてきており、2013年暦年では44%になっている。フードサービス分野はまだまだ小さな市場だが、家庭外でのコーヒー選好が高まってきていることを反映している。更に、商業チェーン（Commercial chains）や喫茶は急速に開発されておりコーヒーの更なる成長の可能性を示唆している。

グラフ 2: 小売及びフードサービス市場のお茶及びコーヒーのマーケットシェア



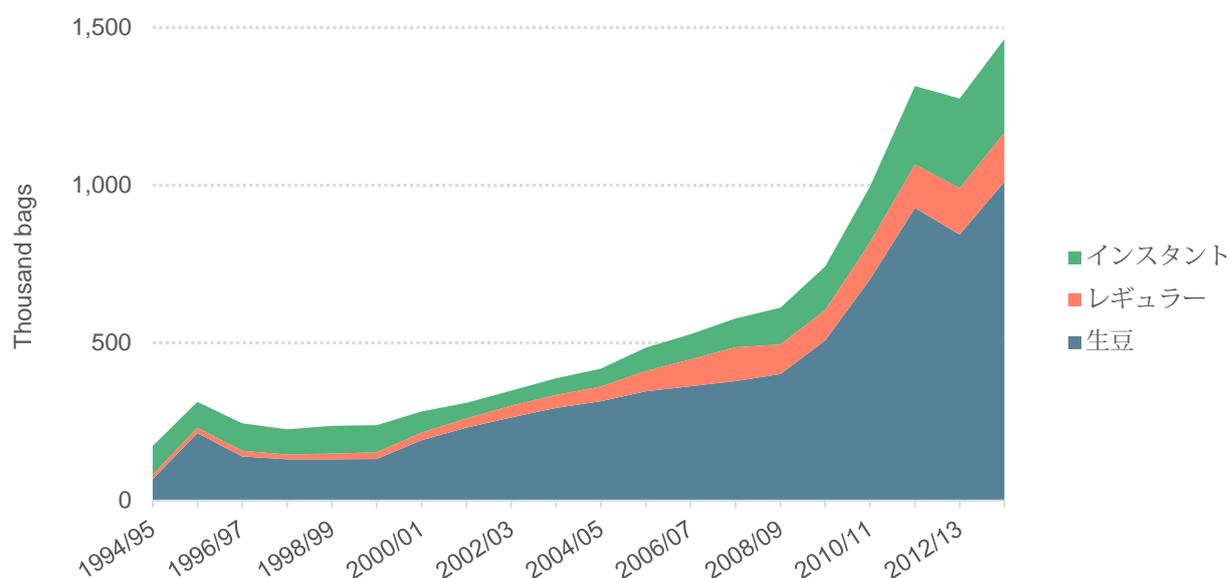
Source: Euromonitor International

(c) 輸入

5. 2013/14年度の中国のコーヒー輸入量は1.4百万袋だったが、2004/05年度は418000袋に過ぎなかった。これは、最近10年間、平均年率15%で、急速に輸入が増えたことを意味する。

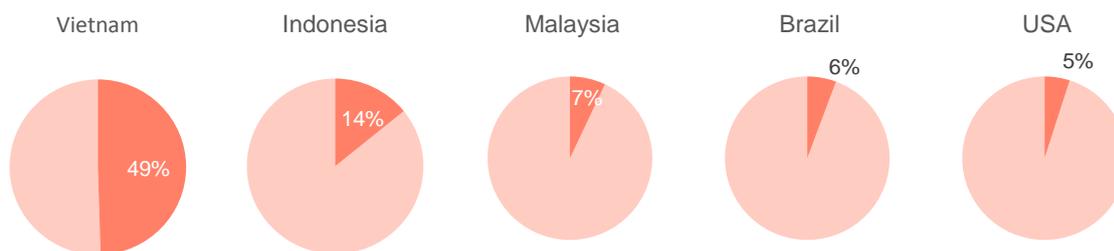
6. コーヒーの輸入は殆どが加工されない生豆の形態で行われており、最近5年間では平均69%のシェアを占めている。1994/95年度にはインスタントコーヒーの比率が比較的が多かったが、その後減少したのは、国内需要を満たすためにネスルの投資による国内 I C加工設備の設置が影響したものと思われる。しかし最近5年間インスタントコーヒー輸入量が急激に増えたのは、国内需要が国内加工能力を上回ったことによるものと推測できる。

グラフ 3: 中国の製品別コーヒー輸入量



7. 輸入先オリジンについて言えば、中国の最大の輸入先はベトナムで2009/10年度から 2013/14年度までの全輸入量のほぼ半分を占めている。80%以上がグラフ4に見られるような5か国（米国からの再輸出を含める）から輸入されている。これらのオリジン及び外部情報から判断すると中国が輸入しているコーヒーの大半はロブスタコーヒーのようであり、中国人のインスタントコーヒー選好が反映されている。しかし、近年コロンビア及び中米からの輸入が増えていることは注目に値する、即ち2009/10年度から年率25%以上で増えており今では全体の5%程となっている。

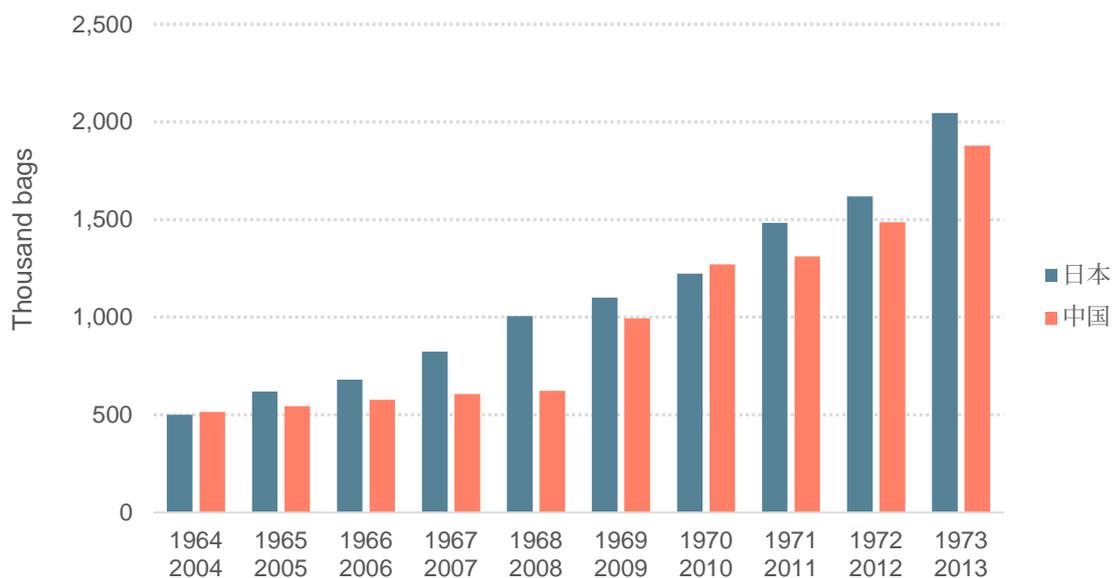
グラフ 4: 中国のコーヒー輸入オリジン (平均値: 2009/10 to 2013/14)



Box 1: 日本のコーヒー消費

過去十年間の中国コーヒー産業の発展は50年前の日本のコーヒー需要推移によく似ている。下のグラフ5を見ると、中国及び日本の10年間のコーヒー消費量は同じような割合で増加していることが解る。日本の消費量は2000年代中頃まで急増し、輸入量は7百万袋以上に達し世界で4番目の消費国となり国民一人当たり消費量も3.5 k g になった。今や日本のコーヒー文化は進歩しており、消費の大半をアラビカコーヒーが占め、加工設備も先進的なものになっている。日本はここに至るまで30年~40年かかっており、中国のコーヒー発展段階は未だ初期段階に差し掛かったところだと言えるだろう。

グラフ 5: 中国のコーヒー消費量 (2004/05 ~ 2013/14) と日本のコーヒー輸入量 (1964/65 ~ 1973/74)



III. 中国のコーヒー生産

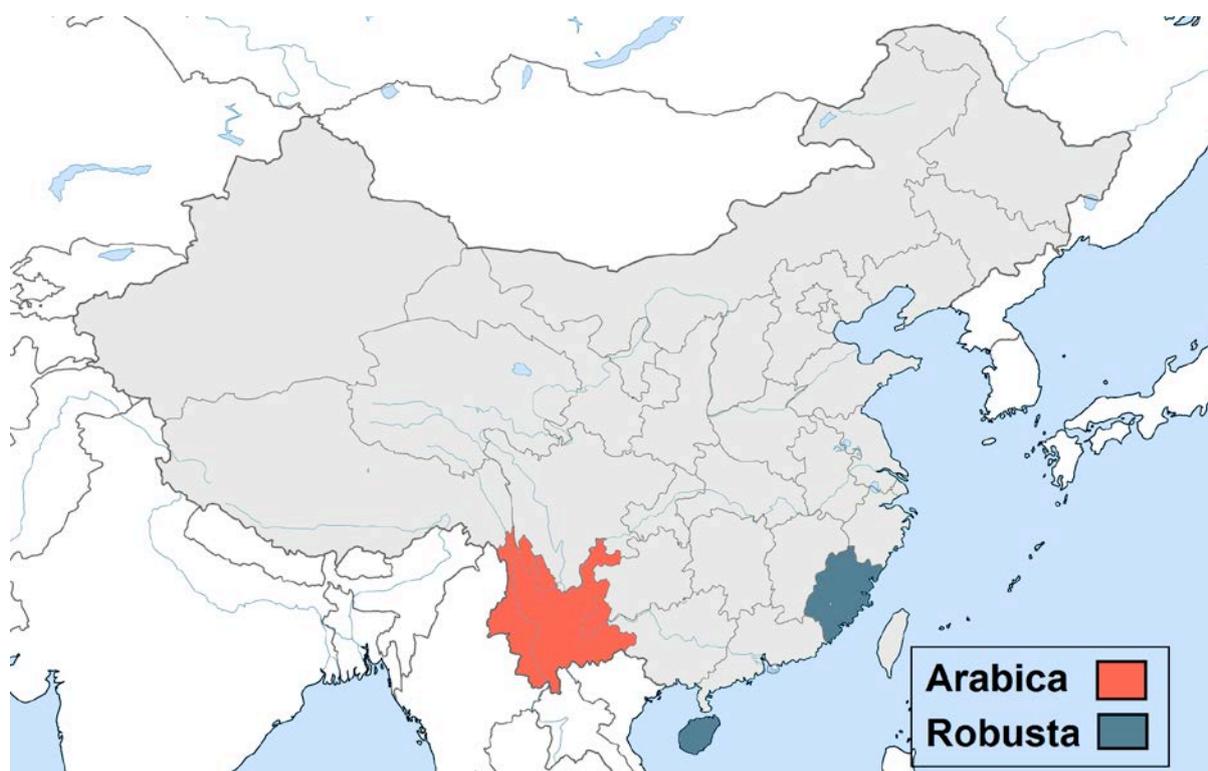
(a) 歴史

8. コーヒーは19世紀後半、フランス人宣教師により、中国の南西部に位置するユンナン省に初めてもたらされた。その後ほぼ100年の間コーヒー生産は停滞していたが、1988年に中国政府が世界銀行及び国連開発機構と協力しプロジェクトが再開された。ネススルのような大企業もまたコーヒー生産を奨励し、結果として生産量は急増した。

(b) 生産地域

9. 未だコーヒーの主産地はユンナン省であり、中国のコーヒー生産量の95%以上を占めている。ユンナン省は伝統的に緑茶生産省であり有名なプーアール茶の産地である。しかし、平均高度が海拔2000メートルを超える山地特性及び温暖な気候はコーヒー生産に適している。この地域はベトナム、ラオス、ミャンマーのコーヒー生産ベルトと国境を接している。この省で生産されるのはアラビカコーヒーのみであり、耕作面積は394000平方km、人口は46百万袋である。ロブスタコーヒーも若干量だが、中国南部に位置するハイナン島及び南東のフジアン省で生産されている。

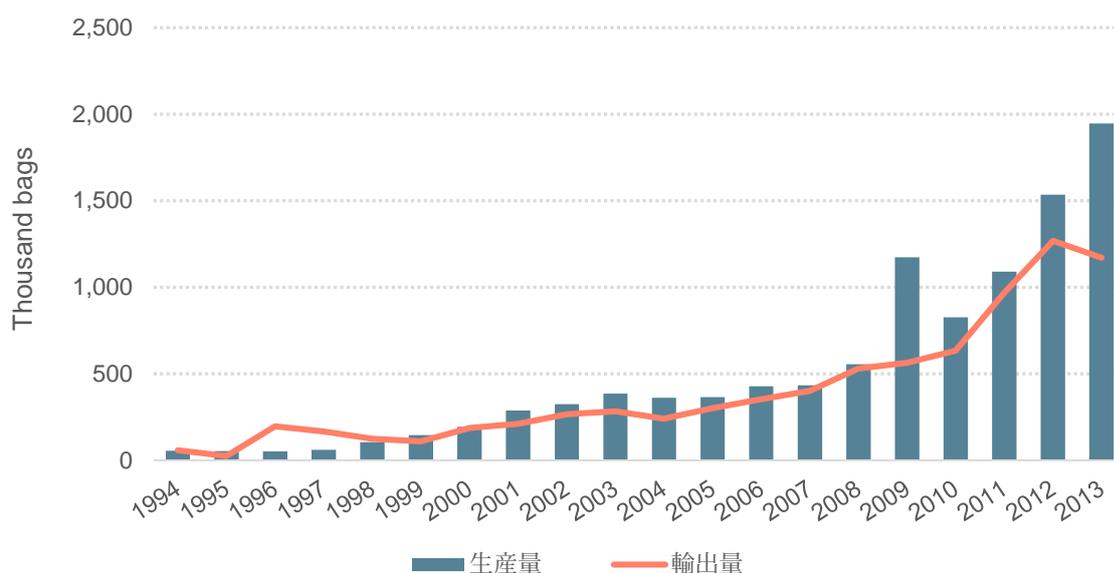
グラフ 6: 中国のコーヒー生産地域



(c) コーヒー生産の現状(1994/95年度～2013/14年度)

10. 中国のコーヒー生産量は最近20年間で急速に増えた(グラフ7参照)。食糧農業機関(F A O)の情報では2013/14年度の生産量は1.9百万袋に達しており、ほぼ5年毎に倍増している計算となっている。現在中国は、コスタリカを抜き、ニカラグアに次ぐ世界14番目の生産国となっているが、10年前は30番目の生産国に過ぎず、生産量は361000袋程度であった。

グラフ7: 中国の生産量及び輸出量(1994/95～2013/14)



11. この様に生産量が増えたのは政府及び民間部門からの旺盛な投資のお蔭によるものである(Box2.参照)。最近、ユンナンコーヒー協会は今後10年間のコーヒー投資金額を30億元(4.8億米ドル)とする計画を発表した。この投資は土質改善や研究所設立、コーヒー生産者研修用に、コーヒー作付面積や生産量を増やす為に使われるとのことである。

12. ユンナン地域でコーヒー生産が進展したのは、緑茶の価格が下がり、コーヒー生産の方が有利になったことにもよる。この地域の農民の収入は、同じ耕作面積で比べるとコーヒーがお茶の2倍になるとのことである：高収入を求めてトウモロコシや米からもコーヒーに転作している農家もいるようである。

13. 現在、中国産コーヒーの品質についてはいろいろな議論がある。一般的には標準スペシャルティコーヒーの品質には届かないものの、国内消費向けとしては少し高品質すぎるとのことである。生産されるアラビカコーヒーは殆どがカティモール種(完全水洗処理)だが、生産者の中には最近、より利益が得られるティピカ種やブルボン種に切り替える農家もいるとのことである。

Box 2: 中国コーヒー生産への民間部門の参入

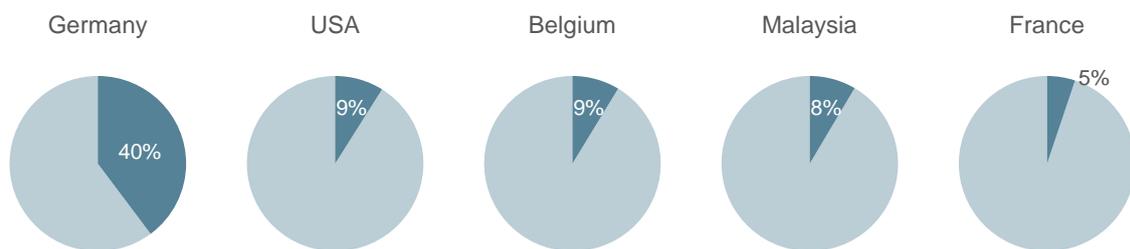
最近、中国コーヒー生産に民間部門の進出が活発化している。ネスルは1980年代からユンナン省に進出しているが、最近2～3年間で買い付け量及び投資額を大幅に増やしている。2013年、ネスルはプーアール地方政府と地域コーヒーセンターに投資するとの覚書を締結した。スターバックスもこの地域での影響力を強める為に、2012年に農家サポートセンターを開設し、品質改善を主眼に代替品種採用プログラムを促進している。更に、2014年10月には、貿易会社のボルカフェ社が地域会社シマオ・アラビカコーヒー（Simao Arabica Coffee Company）と中国コーヒーを世界市場に向けて輸出する目的で、買い付け、加工、輸出のパートナー契約を結ぶ計画を発表した。

(d) 輸出

14. 生産量増加と並行して、中国の輸出量も最近20年間で急速に増加している。中国の輸出を数字で見ると1994/95年度に僅か58000袋であったものが2013/14年度には1.2百万袋になり20倍に増えている。中国の輸出の90%は未加工のコーヒー生豆であり、焙煎コーヒーとインスタントコーヒー製品の輸出は過去5年間平均で4%である。

15. 輸出の向け先を見ると、過去5年間、中国は全世界97か国に輸出しているが、輸出の71%は僅か5か国に絞られる（グラフ8参照）。ドイツ向けが圧倒的に多く、過去5年間では全輸出の40%を占めているが、ドイツはこれらのコーヒーを加工し再輸出しているようである。

グラフ 8: 中国のコーヒー輸出先 (平均値 2009/10 ~ 2013/14)



IV. 見通し

16. 当然のことながら中国コーヒー産業への興味は非常に大きいですが、生産及び消費の尋常でない伸び率は今後想像もつかない方向に発展して行く可能性があることを想像させる。中国政府の統計及びそれに基づく数字を見ると生産量は1.9百万袋強、消費量は1.9百万袋弱であり、2つとも二桁台の成長率を示している。しかし、これらの数字は1.1~1.5百万袋とする他の情報ソースの予想に比べるとかなり高い数字になっていることに注意する必要がある。このことは国内で生産されたコーヒーが国内消費に回されたということで説明がつくが、いずれにせよ全ての数字に注意を払う必要がある。

17. 日本のコーヒー産業発展との比較に話を戻すと、中国のコーヒー消費は日本と同じような成長過程を辿ることになる可能性がある。日本のコーヒー消費は最近7百万袋、国民一人当たり消費量3.5kgを超えた水準で安定している。中国の人口は日本の10倍あるが、コーヒーが消費されているのは人口の半分を占める都市部に集中している。中国は2020年までには年間4百万袋以上を消費するようになるだろうが、更に成長する可能性もあるだろう。

18. 同様にユンナン省のアラビカ生産量はかなり増えているが、ユンナンコーヒー協会は2020年までに生産量を4百万袋にするとの目標を設定している。更に、中国の輸出入データを見ると国内消費に回される国内生産の割合が増えてきていることが解る。これは、中国で需要及び供給双方に関わっているネスルやスターバックスの様な会社が、彼ら自身が目標とするブレンドや製品を中国で供給する為に中国の国内生産部門に投資しているという話を裏付けるものである。中国に於けるアラビカ選好が伸び続けていることを考えるとこの傾向は引き続き継続することが予想される。

19. 結論から言うと、中国のコーヒー産業が世界のコーヒー経済に与える影響は未だ不確かである。ただ、生産及び消費がほぼ同じ割合で伸びていることを考えると世界コーヒーの需給バランス上は中立の存在だと言えるだろう。しかし、生産されているのはアラビカコーヒーで、現在主に消費されているのはロブスタコーヒーだということを考えると、この二つの傾向の持つ意味合いはかなり違ったものとなる。これらを更に深く分析するには詳しい統計資料が必要である。

データ及び方法論

中国のコーヒーに関する資料が限られていたため、中国コーヒー産業の傾向及び動態（dynamics）分析をするには困難が伴った。このレポートで使われた数字は次のように計算した。

1. 輸出及び輸入データ：I C Oの使った数字は中国本土税関の輸出・輸入数字に香港及びマカオの統計局の数字を加えたものを使用した。
2. 生産量：中国のコーヒー生産量の数字は国連食糧農業機関（F A O）で入手できる。これらはメトリックトンで表示されているが60 k gで割ったものを使用した。
3. 消費：消費に関する一貫したデータはない。これは、生産量+輸入量-輸出量で計算し、毎年の急激な数字の変化を少なくする為、2年毎の移動平均値を採用した。また国内在庫は変化しないと仮定している。

データは1994/95年（10月～9月）から2013/14年度までの20年間のものである。全データは表1の通りである。

表 1: 中国のコーヒー関連データ

	生産量	消費量	輸出量	輸入量
1994/95	54	180	58	173
1995/96	53	255	24	313
1996/97	50	220	196	245
1997/98	60	109	166	225
1998/99	104	167	124	236
1999/00	146	245	109	238
2000/01	193	282	186	282
2001/02	287	337	212	309
2002/03	324	396	265	348
2003/04	386	448	283	387
2004/05	361	514	240	418
2005/06	365	544	301	485
2006/07	428	576	352	527
2007/08	433	606	401	577
2008/09	555	623	530	611
2009/10	1 173	994	563	742
2010/11	827	1 271	633	995
2011/12	1 090	1 312	969	1 314
2012/13	1 534	1 488	1 269	1 275
2013/14	1 947	1 891	1 170	1 463
成長率				
1994-2013	21%	13%	17%	12%
2004-2013	21%	16%	19%	15%

単位：袋（60kg）